

美化活動で  
広げる人の輪・つながり

**橘美会**  
きつびかい



橘町総合センターの玄関前にて



花づくりは土づくりが基本。大切な作業です。



花の色合いを考えてペチュニアを植えました。

橘町の美化活動に熱心に取り組むのは、橘を美しくする会（橘美会）。同会が充足した平成13年の当時、目が届かない場所や雑草の中にごみのポイ捨てが多く見られ、清掃すると回収のためにトラックが必要なほどでした。「ごみを少なくし、きれいな町にしよう」との思いの下、住民たちは有志を募って活動を開始。その後、国土交通省の「ボランティアサポート・プログラム協定（道路の美化清掃）」で、本市・同省と調印式を行って以来、町内の空き地、通学路・歩道横、公民館へ花を植えたり（年3回実施）、清掃活動を行ったり、美しいまちづくりを継続しています。

今春も会員等10人が参加し、花壇づくりを行いました。植えた花は、カラフルでかわいいペチュニア。前回のプランターの土を再利用し、まずは培養土、化成肥料、赤玉土を混ぜ合わせて土づくりをしました。皆さんは手際よく作業を進め、花の色合いを考えながら、規則的に丁寧に植えていました。水を



花盛りの季節は特に雑草対策が大切です。



年間を通じてきれいな花壇を。冬は葉牡丹で。

やった時に浮き上がってくるので、花の根元の土をしっかり押さえこむことがポイント。作業は、中腰になったり、土や花の運搬をしたりと大変な作業ですが、できあがった花壇を見て、「きれいになった。うれしい」と会員たちの声には達成感がにじんでいました。

「やりがいは、住民からの感謝や『見るのが楽しみ』などの喜びを伝えてくれること。ポイ捨てが少なくなったと感じること」と話すのは、橘美会会長の児玉通雄さん。（80歳・橘町）同時に「美化活動を通して人の輪・つながりをもっと広げたい」との意気込みも語りました。

灰色コンクリートの道路に、パツと目を引くカラフルさが加わり、散歩途中の方たちや通学中の子どもたちの目を楽しませるとともに、住民どうしのコミュニケーションも生まれています。これは、町をきれいに保とうとする会員たちの姿を見て、多くの人たちから「良いことをしてくれている」と賛同が得られていることその変化でもあると思います。